

平成 30 年度
総合型文化クラブモデル事業
(鶴岡市)

実施報告書

特定非営利活動法人 鶴岡市芸術文化協会

I 事業内容

1. 目的

芸術文化に触れ親しむ機会を設けることにより、子どもたちの豊かな心と感性を育むとともに、世代間交流の場を創出し、地域への愛着と誇りの醸成を図り、芸術文化の継承、発展を目的とする。

2. 概要

鶴岡市の放課後子ども教室6か所に通う児童を対象に、文芸、美術、邦楽、日舞、民謡民舞、吟詠、民俗芸能、洋楽、洋舞、演劇、茶道、華道、大衆芸能、民俗芸能、食文化の部門から希望する芸術文化活動を鶴岡市芸術文化協会の会員、鶴岡市食生活改善推進協議会の会員が講師となり体験する機会を設けた。

3. 実施分野

部門	分野	講師団体
美術部門	ちぎり絵	鶴岡和紙ちぎり絵サークル
邦楽部門	尺八	鶴岡竹友会
	文化箏	山形県大正琴・文化箏愛好会
吟詠部門	詩吟	日本九重流鶴城清吟会
民俗芸能部門	民話	田川民話の会
洋楽部門	合唱	鶴岡土曜会混声合唱団
洋舞部門	フラダンス	ハウオリフラスタジオ
茶道部門	茶道	裏千家淡交会庄内支部鶴岡地区
食文化	伝統食	鶴岡市食生活改善推進協議会

4. 会場

- ・下山添公民館 (櫛引西小放課後子ども教室)
- ・上郷コミュニティセンター (上郷地区放課後子ども教室)
- ・三瀬コミュニティセンター (豊浦地区(三瀬)放課後子ども教室)
- ・由良コミュニティセンター (豊浦地区(由良)放課後子ども教室)
- ・大山コミュニティセンター (おおやま放課後子ども教室)
- ・西郷地区農林活性化センター (西郷地区放課後子ども教室)

5. 実施期間

平成30年7月20日から平成31年2月9日まで

※平成30年5月に各地区教室へ説明会を実施し、実施分野及び日程を協議した。

6. 実施回数等

地区	開催数	参加者数（延べ人数）
櫛引西小放課後子ども教室	2	24
上郷地区放課後子ども教室	30	383
豊浦地区放課後子ども教室（三瀬）	2	69
豊浦地区放課後子ども教室（由良）	20	296
おおやま放課後子ども教室	8	237
西郷地区放課後子ども教室	6	206
合計	68	1215

7. 発表会等

平成 30 年 9 月 29 日

- ・由良地区 健康福祉祭に出演（フラダンス）

平成 30 年 10 月 20 日

- ・上郷地区 文化祭に出演（尺八・文化箏）

平成 30 年 10 月 26 日～29 日

- ・大山地区合同作品展に出品（ちぎり絵）

平成 30 年 10 月 22 日

- ・子ども達による茶会を開催（茶道）

平成 30 年 11 月 4 日

- ・大山地区 芸能のつどいに出演（合唱）

平成 31 年 1 月 20 日

- ・上郷地区 住民のつどいに出演（尺八・文化箏）
- ・由良地区 新年会に出演（フラダンス・詩吟）

平成 31 年 1 月 27 日

- ・日本九重流鶴城清吟会 初吟会（於 荘内神社参集殿）にて由良地区児童出吟（詩吟）

平成 31 年 2 月 9 日

- ・第 47 回芸能のつどい（鶴岡市）に出演
上郷地区（尺八・文化箏）・由良地区（フラダンス）

II 分野別活動報告

1. ちぎり絵（講師団体：鶴岡和紙ちぎり絵サークル）

（1）実施日

7月27日 西郷地区放課後子ども教室

10月17日 おおやま放課後子ども教室

（2）実施回数・延べ人数

2回 51人

（3）実施会場

西郷地区農林活性化センター、大山コミュニティセンター

（4）対象児童

西郷地区放課後子ども教室、おおやま放課後子ども教室

（5）実施内容

和紙ちぎり絵とは、日本の伝統文化である手漉き和紙を素材とし、ちぎる・剥ぐ・貼るといった手法で制作していく絵画である。道具を必要としないことから、幅広い学年・人数を対象に、独特の風合いをもつ、和紙という日本古来の素材に親しみながら、ちぎり絵について理解を深めることを目標とした。

季節に合った題材（夏野菜、ハロウィーン）を用意し、講師が見本となる作品を展示した。それらを鑑賞しながら、子ども達が思い思いに和紙をちぎり、作品を製作した。子どもならではの自由な発想で、同じ題材の中でもそれぞれの作品に個性が見られた。講師も驚くような作品もあり、子ども達、講師共々楽しい時間を過ごしながら芸術に触れる時間となった。



2. 尺八（講師団体：鶴岡竹友会）

（1）実施日

8月31日、9月14日・21日、10月12日・26日、11月2日・9日、
12月7日・14日、1月11日・18日、2月1日・8日

（2）実施回数・延べ人数

15回 131人

（3）実施会場

上郷コミュニティセンター

（4）対象児童

上郷地区放課後子ども教室

（5）実施内容

中々触れることのない尺八に親しむこと、発表会への出演を目標とした。

尺八は息を吹けば音ができるという簡単なものではなく、尺八と下唇・顎等を使って音の出る状態にすることが必要で、そうして初めて音が出るようになり、曲を練習することが出来るというように、段階を踏むことが必要であった。また、低学年は指が細いこともあり、孔が塞ぎ切れない問題もあった。そのため、ただ吹いても音が出ないというのは、子ども達が非常に難しく感じる要因となっていたようである。しかし、講師の数を増やし、講師1人に対する子どもの数を減らすことで、1人1人の実態を把握しながら丁寧に指導を行った。講師団体の方々の尽力によって、次第に音が出る人数が増えていき、子ども達はその時々で一瞬出る音にも喜びを感じていた。

発表の場として、芸能のつどいの舞台には努力を重ねた三名の出演が実現し、見事な演奏で観客からは盛大な拍手を受けた。

一度音が出ても、次の回には出ない等、思い通りにはならない楽器からは学んだことは多かったようで、約半年という短期間ながらも子ども達の成長を感じることが出来た。昨年度の荘銀タクト鶴岡での発表会が意欲的取り組みを生んだ。



3. 文化箏（講師団体：山形県大正琴・文化箏愛好会）

（1）実施日

9月25日、10月5日・15日・20日、12月10日・17日、1月15日・20日・22日
2月5日

（2）実施回数・延べ人数

10回 75人

（3）実施会場

上郷コミュニティセンター

（4）対象児童

上郷地区放課後子ども教室

（5）実施内容

日本の伝統楽器である箏を誰でも手軽に音色を楽しめるように、大きさを半分にした楽器が文化箏である。楽譜は横書きの数字譜であり、年齢に関係なく演奏できるよう工夫されているため、昨年度に引き続き実施することとなった。

教室は当初より発表することを目標とした。参加者は低学年が多かったが、担当講師の円滑な指導があり、限られた練習時間の中で驚くような集中力が発揮され、皆で弾くのは楽しいと練習に取り組んでいた。

発表曲は「さくら」とし、基本所作からしっかりと学び、子ども達が皆で呼吸を合わせ演奏するその音色は、多くの方に感動を与えていた。

箏の美しい音色は、子ども達の様子を見た地域の方に好評で、稽古に関する問い合わせもあるなど、芸術文化の振興、普及に繋がる活動となった。



4. 詩吟（講師団体：日本九重流鶴城清吟会）

（1）実施日

11月9日・21日、12月7日・21日、1月18日

（2）実施回数・延べ人数

5回 59人

（3）実施会場

由良コミュニティセンター

（4）対象児童

豊浦地区放課後子ども教室（由良）

（5）実施内容

詩吟という言葉、漢詩や和歌などを独特の節回しで吟ずる芸能を初めて聞いた、見た子どもが多々見受けられたが、最終的には発表会で吟ずることを目標とした。吟題には子ども達にも日本の象徴として周知されている「富士山」を選択した。

教室開始時は礼儀作法に厳しい吟道という世界、詩に込められた意味、漢字や独特の言い回しが難しく感じたようで、集中できず、自由奔放な子ども達であった。しかし、担当講師の子ども向けに自ら作成した教本など、創意工夫を凝らした教室の中で、基本姿勢や発声を学び、教室の終了時には吟ずることが出来るようになり、正しい所作を身に付けていた。

練習を重ねた後、二度の発表の場を設けた。指導者の熱意もあり、新年荘内神社社頭での初吟会には全員参加の綺麗な吟声が響いた。

ただ吟ずるということではなく、礼儀作法や美しい所作を学ぶことは、芸術文化を体験するという事に留まらず、感謝や思いやりなど、他人への心遣いを身に付ける場となっていた。



5. 民話（講師団体：田川民話の会）

（1）実施日

10月12日・26日

（2）実施回数・延べ人数

2回 37人

（3）実施会場

由良コミュニティセンター

（4）対象児童

豊浦地区放課後子ども教室（由良）

（5）実施内容

民話とは、生活の中から生まれ、口承されてきた説話である。担当講師には、地元有志で口承伝統を守る、田川民話の会の会長自らにも語り部をして頂いた。

民話は大きく分類して、昔話（ムカシ、ムカシコ、ムカシガタリ）、伝説（イイツタエ、イワレ）、世間話の3種類があり、それらの中から約20の話を読むこととした。

子ども達には笑い話だけではなく、怖さに堪えられないような怪談の類も好評で、教室は常に笑い声や驚きの声等が響き、賑わっていた。口承されてきた話であることから、方言が多用されることもあり、講師の解説は勿論のこと、子ども達も分からない言葉があると、隣にいる子と教え合う、講師に質問する等、民話についてだけでなく方言を学ぶ機会ともなっていた。

様々な話を通して、歴史、社会、文化、言語等、幅広い分野を楽しく学ぶことが出来た活動であった。



6. 合唱（講師団体：鶴岡土曜会混声合唱団）

（1）実施日

10月3日・10日・31日、11月4日

（2）実施回数・延べ人数

4回 126人

（3）実施会場

大山コミュニティセンター

（4）対象児童

おおやま地区放課後子ども教室

（5）実施内容

大山地区の芸能のつどいにて、小学校校歌、他1曲を発表することを目標とした。担当講師として子ども達が通う小学校の校歌作曲者より指導があり、曲の表現や意図を知ることが出来る、子ども達にとっての貴重な経験となった。

発表日当日は他の行事と重なってしまった子ども達があり、人数が少なく、低学年の割合が大きくなり、練習の成果を全て発揮できる状況ではなかったにも関わらず、しっかりと歌い上げた。

子ども達本人、聴衆である保護者、地域の方々も歌の力に驚き、喜びを感じており、表現者、鑑賞者が相互に作用し合い感動を得るという芸術活動の本質に触れることができた活動と考えられる。



7. フラダンス（講師団体：ハウオリフラスタジオ）

（1）実施日

7月20日、8月24日・31日、9月7日・21日・28日、12月10日・17日

1月7日・11日 豊浦地区放課後子ども教室（由良）

11月9日・16日 西郷地区放課後子ども教室

（2）実施回数・延べ人数

12回 186人

（3）実施会場

由良コミュニティセンター、西郷地区農林活性化センター

（4）対象児童

豊浦地区放課後子ども教室（由良）、西郷地区放課後子ども教室

（5）実施内容

フラにはダンスの他にも様々な要素が含まれる総合芸術であると同時に、宗教的な行為でもあり、単なるダンスや音楽の概念では捉えられないものである。教室では、それらのフラの文化、精神に触れ、楽しく体験することを目的とした。

市内にスタジオを構える講師の卓越した指導により、子ども達は非常に意欲的で、休憩中にも早く踊りたい等の声があり、フラがとても楽しく感じられていたことが窺えた。

発表の場を設けることとなり、発表曲として、ハワイでも知名度の高い「カ・ウルヴェヒ・オケカイ」が選曲された。教室関係者の協力で華やかなフラダンスの衣装が制作され、子ども達のさらなる意欲の向上につながった。発表に際しては、波、熱い太陽と熱い砂、海藻を採集し食べる仕草や、サーフィンをする様子などを、息を合わせた掛け声と踊りで、見事に、そして豊かに表現しており、華やかな衣装と共に聴衆に感動を与えていた。

様々な表現を含む踊りは、子ども達の感性を豊かにし、創造性を高めたと思われる。舞台という限りのある空間で他者と調和のとれた動きを作ることは社会性を育み、フラという総合芸術ならではの様々な成長が見られる活動となった。



8. 茶道（講師団体：裏千家淡交会庄内支部鶴岡地区）

（1）実施日

9月27日、10月31日（櫛引西） 8月27日、9月10日、10月2日・22日（上郷）
9月12日、10月3日、11月14日（由良） 1月9日、2月6日（大山）
11月30日（西郷）

（2）実施回数・延べ人数

12回 329人

（3）実施会場

下山添公民館、上郷コミュニティセンター、由良コミュニティセンター
大山コミュニティセンター、西郷地区農林活性化センター

（4）対象児童

櫛引西小放課後子ども教室、上郷地区放課後子ども教室
豊浦地区（由良）放課後子ども教室、おおやま放課後子ども教室
西郷地区放課後子ども教室

（5）実施内容

茶道については、日本伝統の湯を沸かし、茶を点てる行為として、幅広い学年から認知されていた。しかし、「もてなし」と「しつらえ」を基本にした生活文化であり、茶を振る舞う茶道の精神文化については知られてはいなかった。そのため、茶碗に始まる茶道具や、床の間にかかる禅語、所作など、それぞれに意味があることを知り、茶道という伝統文化の奥深さを体験し、理解することを目的とした。

教室では、道具等の解説から、主客に差し出すまでの一連の流れを体験することで、それぞれに込められた意味を理解しながら学んだ。また、保護者などを招待した子ども達による茶会が企画された地区もあり、熱心に練習を重ねた。茶会では、普段の子どもの様子と違う大人びた姿に、参加した保護者、地域の方々には感動を覚えながら、美味しくお茶を頂いていた。

活動を通し、茶道の奥深さ、人が人を大切にする精神を学びとっていた。



9. 伝統食（講師団体：鶴岡市食生活改善推進協議会）

（1）実施日

8月7日 上郷地区放課後子ども教室
9月3日、12月21日 豊浦地区放課後子ども教室（三瀬）
1月23日 おおやま放課後子ども教室
8月31日、12月22日 西郷地区放課後子ども教室

（2）実施回数・延べ人数

6回 215人

（3）実施会場

上郷コミュニティセンター、三瀬コミュニティセンター
大山コミュニティセンター、西郷地区農林活性化センター

（4）対象児童

上郷地区放課後子ども教室、豊浦地区(三瀬)放課後子ども教室
おおやま放課後子ども教室、西郷地区放課後子ども教室

（5）実施内容

鶴岡市は山・里・海の大自然が独自の食文化を育み、国内唯一のユネスコ食文化創造都市として認定を受けている。その豊かな食文化を子ども達が実感できるよう、各地域に存在する特色のある郷土食や行事食等を献立とし、調理を体験することとした。

地域の歴史、食文化を知るために、御寺にて講話を聴き、食材の調達から調理まで、食の成り立ちを一から学び、体験することで、先人たちが自然と生命の営みに真摯に向き合ってきた歴史を継承する機会となった。また、会場の近隣地域在住の方が直接指導に当たることから、世代間交流の場として有効に機能し、地域のつながりが深まり、双方が価値の得ることのできる新たなコミュニティの創出に繋がった。芸術文化という領域での伝統食を学ばせる活動となった。



Ⅲ 発表会等



上郷地区 子ども達による茶会



由良地区 新年会 (詩吟)



由良地区 新年会 (フラダンス)



第47回芸能のつどい 尺八(上郷地区)



第47回芸能のつどい 文化箏(上郷地区)



第47回芸能のつどい フラダンス(由良地区)

IV 実施してみての感想・利用者の声

1. 子ども達の感想（芸術文化活動を体験して）

上郷小学校 1年 長谷川煌 （文化箏）

ぼくは、ぶんかごとでした。ことはテレビでしか見たことがなくて、ふつうは、ながいにはんぶんでさいしょさわったら、かんぺきにひいてやるとおもいながらやりました。本とうにかんぺきにひけるようになりました。げいのうのつどいでかんぺきにひけてよかったし、おきやくさんにもつたわるといいです。

上郷小学校 1年 山戸田碧希 （文化箏）

ぼくがでたのは、ことです。あまりきんちょうしなかったけれどすこし、しっぱいしてしまったのでくやしかったです。リハーサルのときにははじめて中おうこうみんかんのぶたいに、たちました。でも一どプラネタリウムでいったことがあったのでやねを見ておもい出しました。また、中おうこうみんかんのぶたいにたちたいです。

上郷小学校 2年 大沼心胡 （文化箏）

わたしは文化ごとのれんしゅうではぜんぜん上手に引けませんでしたが、でもみんなとやっているうちに楽しくて、れんしゅうで何回もやって上手になりました。じゅうみんのつどいとげいのうのつどいでではじめて文化ごとをやりました。きょ年はみんなをやって上手にできました。今年は何が出来るのか楽しみです。しゃくはちはむりだと思えます。でもやるだけでなくみんなとたのしめるといいのかなあと思いました。

上郷小学校 2年 諏訪由吾 （尺八）

ぼくは、尺八を一年生から始めました。ヤクルトの容器を使って音を出す練習をして音が出るようになったら、尺八を貸してもらえました。最初は、音がきれいに出なくて、とても難しかったです。毎日練習していたら譜面を見なくても、七曲吹けるようになりました。先生から、「上手くなったね。」と言われてうれしかったです。ステージで、発表した時ははずかしかったけれど、上手く出来ました。また、演奏してみたいです。

上郷小学校 3年 長谷川綾 （尺八）

尺八は、はじめて習った時は、ぜんぜんふけなくて「ぜったいむりだ。」と思えました。それから、音階がドレミファソラシドじゃない事にびっくりした。音が出るように家でがんばりました。チューリップがふけるようになって先生から「すばらしい」と言われてうれしくなりました。新しい曲を3曲おぼえ、さいごの尺八の発表の時は、音がかすれたけど、さいごまでふけました。尺八のきちょうな体験をありがとうございました。

上郷小学校 4年 板垣睦生 (尺八・文化箏)

わたしは、去年はタクトで発表しました。ことは、去年もしていましたが、今年は、「さくら」という曲で、たくさん練習して、本番では楽ふなしでえんそう出来ました。

尺八は、最初は全然、音が出ませんでした。四年になってから始めて、他の二人よりおそく始めたので、家でもいっぱい練習しました。今では音も出て、七曲もふけます。

わたしは、発表でも上手にえんそう出来たし、この活動に参加出来て良かったです。

豊浦小学校 5年 佐藤美月 (伝統食)

わたしは、行事食作りを体験して、あまり食べたことがなかったものがたくさんあってびっくりしました。家で料理をする時は、お母さんと二人だけど、他の学年の人や地いきの方々がいてとても楽しかったです。また、低学年や同級生たちと教え合いながら食文化について知ることができました。初めはしっかり作れるか心配だったけど、みんなと協力して、とてもおいしいご飯を作ることができました。ありがとうございました。

豊浦小学校 2年 佐藤桃子 (詩吟)

わたしは、歌がとくいなので「詩吟」と聞いた時、わたしは「詩吟って歌だよね？」とコミセンの先生に聞いたら、「歌だよ」と言われた時、わたしは、「イエー」と思いました。れんしゅうしている時、先生から「口がひらいていて大きい声でいいね」と言われた時、わたしは、うれしかったです。コミセンで発表があると聞いた時、「発表のためにがんばらないと！」と思いました。もうこれで詩吟もおわりかあと思った時、また荘内神社ですると聞いた時、「またできる、やったー」と思いました。ぶじに発表がおわってホッとしました。詩吟がもうできなくなるのはいやだけど、みんながんばってきたのでよかったなーと思いました。またやりたいです。

豊浦小学校 3年 榊原百香 (フラダンス)

わたしはフラダンスを体験して、楽しかったです。おどっている時に、かけ声をだしたり、海で遊んでいる様子などを表しているのが、楽しかったです。それに、子ども教室の友だちとおどれたので、うれしかったです。フラダンスの基本や動きがわかって、良かったです。

豊浦小学校 4年 小野伶武 (茶道)

ぼくが、茶道教室で学んだ事は、まず礼儀です。おじぎには三種類あります。先生など目上の方には深く、お客様には、へそ位まで、友達にはむね位まで。ぼくは、「いろいろなおじぎの仕方があるんだな。」と感心しました。次に、お茶を作る時に必要な道具です。お茶をまぜる時は茶せんをつかいます。ぼくは、茶せんを見て「これでまぜるの。」と思いました。何より、みんなで少しにがいお茶とあまい和がしを食べることが一番楽しい体験でした。

豊浦小学校 5年 佐藤香恵 (民話)

わたしは、民話語り教室をやって昔のきちょうなお話を聞けたし、昔の言葉を知れたのでよかったです。民話語りの内容も、すこし言葉が分からないこともあったけどおもしろいと思えたのでよかったです。それに民話で知らないことも、話を聞いてくわしくしれたのでよかったです。わたしは、今までやったことのない貴重な経験ができたのでよかったです。

大山小学校 2年 小林心温 (茶道)

わたしは、一年生の時からほうかごきょうしつでお茶をのみました。さいしょは、にがくてがまんしてのみました。でも今は、ちょっぴりにがいけどのめるようになりました。お茶ののみかたは、むずかしかったけど、今は、すこし楽しいです。お茶の時のおかしは、あまくておいしいのでまた食べたいです。

大山小学校 5年 秋葉美紅 (茶道)

わたしは二年生からずっとお茶をいただいていて、五年生からお茶を点てることを教えてもらいました。その作法は難しく、いくら教えてもらっても、ぜんぜんわかりませんでした。特にお茶を運ぶ時やおかしを運ぶ作法などはルールが多すぎて、頭に入りませんでした。ですが、お茶を点てる作法だけは身に付きました。お茶わんにも表や裏があって、だいたい見分けられるようにもなりました。作法を身に付けたことでたくさん学ぶことができました。

大山小学校 2年 いけだめい (合唱)

げいのうのつどいで、歌を歌いました。きんちょうしたけどがんばりました。れんしゅうでは、うたをおぼえるまでたいへんでした。むずかしかったけどうまく歌えました。楽しく歌をうたえました。

町の人たちのまえであたらしいこうかをはっぴょうすることができました。歌いかたをきちんとおしえてもらいました。これからもうたうことをがんばりたいです。

大山小学校 2年 たかだかのん (合唱)

わたしが心にのこったことは、合唱で「すてきな一歩」をみんなで歌ったことです。どういうところかという、みんなとれんしゅうして、だんだんとおぼえていってがくふを見なくても歌えるようになったことです。

本番は、とてもきんちょうして、となりにいためいちゃんに「ドキドキするね」と言いました。その時は、おきゃくさんの声がしてステージの上にあがっている時も、とてもきんちょうしたが、友だちの顔をみると、ほっとして、きんちょうがおさまりました。

今ど、またかきざき先生とあべ先生から、べつの歌を教えてくださいたいです。

コミセンに来てくれた家ぞくがしゃしんをとって来てうれしかったです。家ぞくから「上手だね」といわれて歌ったかいがありました。また歌いたいです。

大山小学校 5年 五十嵐結仁 (伝統食)

放課後子ども教室の三年から六年のみんなでしいたけコロッケ作りをしました。がんばったところは、コロッケの形を整えたりしたり、パン粉をまんべんなく付けるところをがんばることができました。そして食べてみたらすごくおいしかったです。またこのようなふつうではできないような行事をたくさんしたいなと思いました。

大山小学校 3年 荻原仁 (伝統食)

ぼくは、1月23日にコロッケを子どもきょうしつで作りました。楽しかったです。しいたけコロッケのそのしいたけはぼくたちがそだてました。楽しかったです。手のひらくらいのしいたけもありました。それをコロッケのざいりょうにつかってコロッケを作りました。めちゃくちゃウルトラスーパーおいしかったです。りょうりのせんせいから食べることのたいせつさをおしえてもらいました。家のお母さんも食べておいしかったと言っていました。

西郷小学校 2年 本間豪 (茶道)

茶道を体験して、お茶とお菓子はおいしかったけど、正座を長い時間して、足がびりびりして、茶道はたいへんだなあと思いました。飲み方とかはすぐ忘れてしまったのでまたやりたいと思いました。

西郷小学校 2年 門脇大焔 (フラダンス)

フラダンスは初めてだったのでなにをすればいいかわかりませんでした。全然うごけなくてやり方がわからないと思いました。少しむずかしかった。でも手で波とかするのはおもしろいと思いました。

西郷小学校 2年 菅原遙斗 (フラダンス)

フラダンスをいっしょうけんめい教えてくれてありがとうございました。おしえてくれた先生はフラダンスがとてもうまいと思いました。

西郷小学校 2年 田村栞愛 (伝統食)

わたしはなっとう汁を作りました。作る時はとてもたいへんでした。理由は、なっとうをすりつぶすのがとてもたいへんだったからです。大根でつぶしました。おかあさんにすりばちをおさえてもらいました。先生は、もっとひとつぶをつぶして、と言っていました。なっとう汁はおいしかったです。

西郷小学校 2年 佐藤晃人 (伝統食)

しそ巻をつくるときびっくりしたのは、みそをまるく作ることです。とてもつかれました。しそ巻はおいしかったのですぐに食べました。またつくりたいです。

西郷小学校 1年 阿部七海 (ちぎり絵)

ちぎり絵のトマトとなすがじょうずにできてよかったです。とてもじょうずにできたのでまたやりたいです。

西郷小学校 2年 佐藤綺季 (ちぎり絵)

去年もちぎり絵をやったけどうまくできませんでした。今年うまくできたのでうれしかったです。3年生でもちぎり絵にさんかしたいと思います。

西郷小学校2年 田中ひより (ちぎり絵)

去年もちぎり絵をやったけれど紙がなかなかちぎれなくてうまくできなかったけれど、今年うまくできて楽しかったからまたやりたいです。

2. 講師より

ちぎり絵講師

- ・教材を身近に見ているので、上手にできていた。
- ・高学年の子どもが一年生を手伝っている姿もあり、時間内に完成、大変喜んでいました。
- ・三年間の協力でしたが、教材、和紙のちぎり方（水切りにする）、指導方法（切り方、順番等）全員が見えるよう大判用紙に書いていく等工夫し、指導者も勉強になった。
- ・参加した子ども達は大変意欲的で、完成した作品を喜んでくれた。

尺八講師

- ・毎回、始めに講師による模範演奏を鑑賞してもらった。学年別、前年度経験者別（3～4）グループに分かれて、尺八の持ち方、吹き方を教授した。前年度経験者は主に別室で新しい「音」（指の扱い方）の出し方を練習した。初心者（主に1年生）は音出しに挑戦した。経験者は「住民のつどい」「芸能のつどい」出演に向けて猛練習した。
- ・1年生は指が細い為に楽器の孔（あな）は塞ぎ切れない。両手でつかんで歌口（口元）の角度などを調整して吹きかける。一瞬音が出るときもあるが、それが子ども達にとっては嬉しいらしい。こんなささやかな喜びで半年近く続いた。
- ・小学1年生は体格（特に指の太さ）により、困難だった。それだけに集中して指導できる時間は短く、興味を持続させるには忍耐を要した。生の演奏を聞いたり、尺八を直接扱う経験は、いつかまた挑戦する機会が生まれることを期待したい。

文化箏講師

- ・9月に始まり、慣れない正座で文化箏にむかってもらいました。演奏する心構えや姿勢も身に付けてもらえるように指導させていただいたつもりです。少ない教室回数の中で三度の演奏披露の場を頂戴できました。
- ・低学年の参加者が多く、落ち着かない児童もいました。演奏する機会が近づくと気持ちも変わってくるのを感じました。
- ・地域性もあると思いますが、舞台に立つことをしり込みしてしまう児童も多かったのは残念に思いました。
- ・日本に古くから伝わる楽器の箏、ミニチュア版ではあってもそれなりの音を楽しめますので、放課後の時間とは言え、触ってみる機会を与えていただき、携わっている私にもありがたかったです。感謝致します。

詩吟講師

- ・最初に吟題を決めることから始まり、それから手元にある私共の教本から、「富士山」を選び、子供用に吟譜を書き直すところからスタートしました。限られた4時間でどうしたら覚えてもらえるだろうかと、悩みました。それで、先ず基本の発声練習、素読を何度も繰り返し、吟ずる時の姿勢、目線の向き方、手の置き方等、指導致しました。次にコンダクターを用いて音を取りながら、繰り返し繰り返し吟じさせ何とか覚えてもらいました。
- ・先ず第一印象は、良く云えば自由奔放、率直に申し上げれば、マナーが悪いということでした。例を挙げれば、机の上に頬杖をついて、人の話を聞いたり、おしゃべりをしたり…。そこで私は、コミセンの方に、子ども達の方に机を置かない事、全員に椅子を用意する事、一時間ずっと練習では、厭きて集中力がなくなるので、途中10分の休憩時間を設ける事を提案致し、取り入れてもらいました。練習するときと、休みの時とメリハリをつける事で、それからの取り組み方が違って来たように思います。
- ・この様な初めての総合型文化クラブの取り組みのモデル事業の地域として由良を選んで下さり、私のように未熟な者を指名して頂き誠に有難うございました。それから恐らく詩吟などという固有名詞は、初めて聞いたであろうと思われる由良地区の子ども達、由良コミセンの担当者、他皆様の御協力が無事、「由良の新年会」「鶴城支部初吟会」で皆さんの前で「富士山」をお聴かせできて本当に良かったです。ありがとうございます。

民話講師

- ・学校帰りの児童達は畳に座れば疲れて、眠くなる子もいて、横になったり、自由にさせた。
- ・怖い話、笑い話には反応があった。
- ・話し言葉の昔話は子どもにとっては難解だったよう。

合唱講師

- ・発表会当日が、他の行事と重なって、半分以下の人数、しかも低学年が多くて、練習の成果が全て出たわけではないが、それなりに頑張って歌い、本人たちも聞いておられた方も、喜んでいたように思います。

3. 教室関係者より

- ・今年度は9、12月と「行事食をつくろう」と題して二回開催いたしました。9月はお彼岸について学び、おはぎ、ごま豆腐のあんかけを調理しました。また、12月は錦卵のクリスマスツリーを作り、卵の裏ごしなど子ども達は苦戦していましたが、上手にでき皆でおいしく食べることができました。
- ・伝統食という昔の食べ物というイメージであまり子ども達は好まないとおもっていましたが、子ども達がおいしく完食していたのには驚きました。
- ・季節の伝統食について学ぶ事ができ、勉強になったと思います。また、地区の食改のみなさんが協力してくれて、大変ありがたかったです。
- ・スムーズな運営が出来て、良かったです。
- ・3年間というモデル事業でしたが、この事業は大変良かったので、来年度からもぜひなんらかの形で継続して頂けたら良いと思います。
- ・日本の文化を通常より高度な取り組み、講師の方に恵まれて、子供たちの成長に驚いた。
- ・子どもたちの豊かな心と感性を育むことが出来ました。大変感謝しております。
- ・三年目になるので、子ども教室関係者と講師の連携や意思疎通がスムーズになった。時間をかけて取り組んできたおかげと思う。
- ・回数を重ねることで、子ども達にとっても各分野への理解が深まり、芸術文化が身近に感じられるようになった。伝統食、茶道、ちぎり絵は前年に経験していることから、要領もよくわかり、すぐに集中して取り組むことが出来た。
- ・各分野の専門家である講師との交流は、子ども達にとって、大変貴重な経験となっている。
- ・子ども教室にとって日程に比較的余裕のある2月～3月が実施期間となっていない。
- ・芸文協加盟団体のすべてが子ども教室向けに講座を持てるわけではないので、はじめから対象団体を限定してもいいのでは。
- ・伝統食教室は、食の都鶴岡ならではの特徴を生かして子ども達と地域の大人が交流できる、良い事業で好評である。
- ・荘銀タクト鶴岡での発表の機会を作ってほしい。地元の立派な舞台を踏むということは、稽古をする上で大きな動機付けとなる。子ども達にとって生の思い出になり、この上ない経験となる。発表会を実施する上では、衣装小道具がとても重要なので、十分な予算を確保してほしい。
- ・4つの文化活動を実施し、それぞれ発表の場を頂き、子ども達も練習の成果を発揮でき、達成感を得ることが出来たと思います。
- ・今年度は一年生が多く、大変ではありましたが、この総合型文化クラブモデル事業を通して、殆ど触れることのない、芸術文化活動を体験できる機会を頂き、大変感謝しております。また、子ども達にとっても貴重な経験となったことと思います。

- ・特に1年生については、当初、保護者の希望により参加している子どももいましたが、回を重ねる毎に、また発表という目標ができてからは、それぞれ頑張ったと思います。2年生以上は1年生を励ましながらか、声をかけたり、一緒に活動することで一体感も生まれたと思います。
- ・下校後三時半頃からの活動となり、特に1年生は体力的にも疲労感があったりで、その日その日でやる気度が違ったり、先生方には予定通りの指導ができなかったのではないかと、申し訳なく思っています。
- ・その年の参加児童の学年により、実施する活動も十分検討すべきとスタッフ間での話になりました。
- ・昨年の「文化箏」に続き、「フラダンス」で大きな発表の場を設けて頂き、感謝しております。地域でも発表はするものの、子ども達のモチベーションも違ったと思います。発表が目的ではありませんが、芸術文化に真剣に向き合って、活動したことで、子ども達の心にも残ったと思うし、自信になり、財産にもなったと思います。先生方には本当に丁寧にご指導いただき、ありがとうございました。次年度もこのような機会がありましたら、是非実施したいと考えております。

V 総合型文化クラブモデル事業を終えて ―成果・課題と展望―

1. モデル事業の効果

急激な少子化によって、学校の統廃合が進み、地域住民が協力し合う共同活動の核になっていた小学校が、地域から消えた。子どもの顔も声も見なくなり、同時に地域住民の交流も希薄になった。その結果、地域独自の伝統的催事も催行が困難になって、新しい工夫が迫られている。様々な芸術文化の継承に関わってきた指導陣も高齢化が進み、総体としての人口枠減少による共助の難しさが目立ってきている。地力がまだ残っている間に、知恵と工夫で、次世代育成を図らなければならない状況の中で、モデル事業は時宜を得た企画であった。

2. 年度計画の設定

初年度を企画の年、2年目を成長の年、最終の3年目を総括の年と目標を立て、「モデル事業」として発信できるよう取り組んだ。放課後子ども教室利用者を対象児童としたが、実施分野（初年度7種、2年目11種、3年目9種）・実施回数（初年度47回、2年目64回、3年目68回）・延べ参加人数（初年度725人、2年目987人、3年目1215人）も年度を重ねて拡大し、発表会もその度毎に地域と催事を元気づけた。事務局担当職員が、都合で毎年変更になる状況もあったが、それぞれの工夫と積み重ねがあり、成果に結びついた。山間部・平野部・海岸部とそれぞれの地域特性を踏まえて、地域に育つ子供の違いも大きな学びとなった。地域の子育て支援の担当者や生涯学習推進員・保護者との交流の中で、指導者自身が子ども達と共に学ぶ姿もあり、地域に根づいた活動の推進につながる期待が持てた。

3. 発表会開催での地域協同

発表の機会を設定することは、子ども達の学びに達成したい目標の設定と、頑張る方向性を自発的に設定する意欲につながり、達成感・成就感による喜びを効果的に体得させた。短い時間と数多い体験学習で、何をどのようにとの企画は、指導者と地域特性によるが、舞台部門はもとより、茶道や展示部門でも、緊張感のある学びにつながった。市社会教育課との連携も強化され、地域の方々の協力を得ることで、関わり合いを深め、次の展開への知恵を生むことになった。

4. 次世代育成への指導者の熱意

概ね、午後三時半からの一時間とする時間設定の中で、中心市街地を除く設定になっている関係上、交通手段の確保や機材運搬など、それぞれ負担をかけた。子ども達の感性と柔軟さに感動しつつの指導には熱意と工夫が凝らされていた。学ばせたいと願うことと、地域が学びたいと挙げてくる分野の違いがあったが、あくまでも地域で展開する事業としての主体性を尊重した。それが新たなバランスを呼び込んだと考えられる。子どもを対象

に教えてみての課題が鮮明に意識されたこともあった。次世代育成が芸文協会員の共通意識として定着し、それぞれの団体の活動にも意識的に取り入れられ、発表の機会設定につながった。

5. 今後の展望

発表会などの市民交流の中で、三年間の取り組みの成果が認知され、次年度からは鶴岡市独自の予算措置での継続決定を見た。子ども達の豊かな体験を通して、次世代につなぎ、芸術文化の継承発展と、世代間交流・地域の元気づくりにつなげてゆきたい。

ユネスコ創造文化都市認定を受けている食文化に関して、行事食、伝統食の体験学習を求めることが多い。食生活改善推進協議会の関係者の協力を得て実施しているが、芸術文化協会として取り組む内容は食生活改善推進協議会との取り組みとは違う内容での行事食、郷土食の文化的側面に重点を置いた取り組みとして推進してゆきたい。